

内定者の声

～令和4年度入省予定 一般職事務系(大卒程度)～

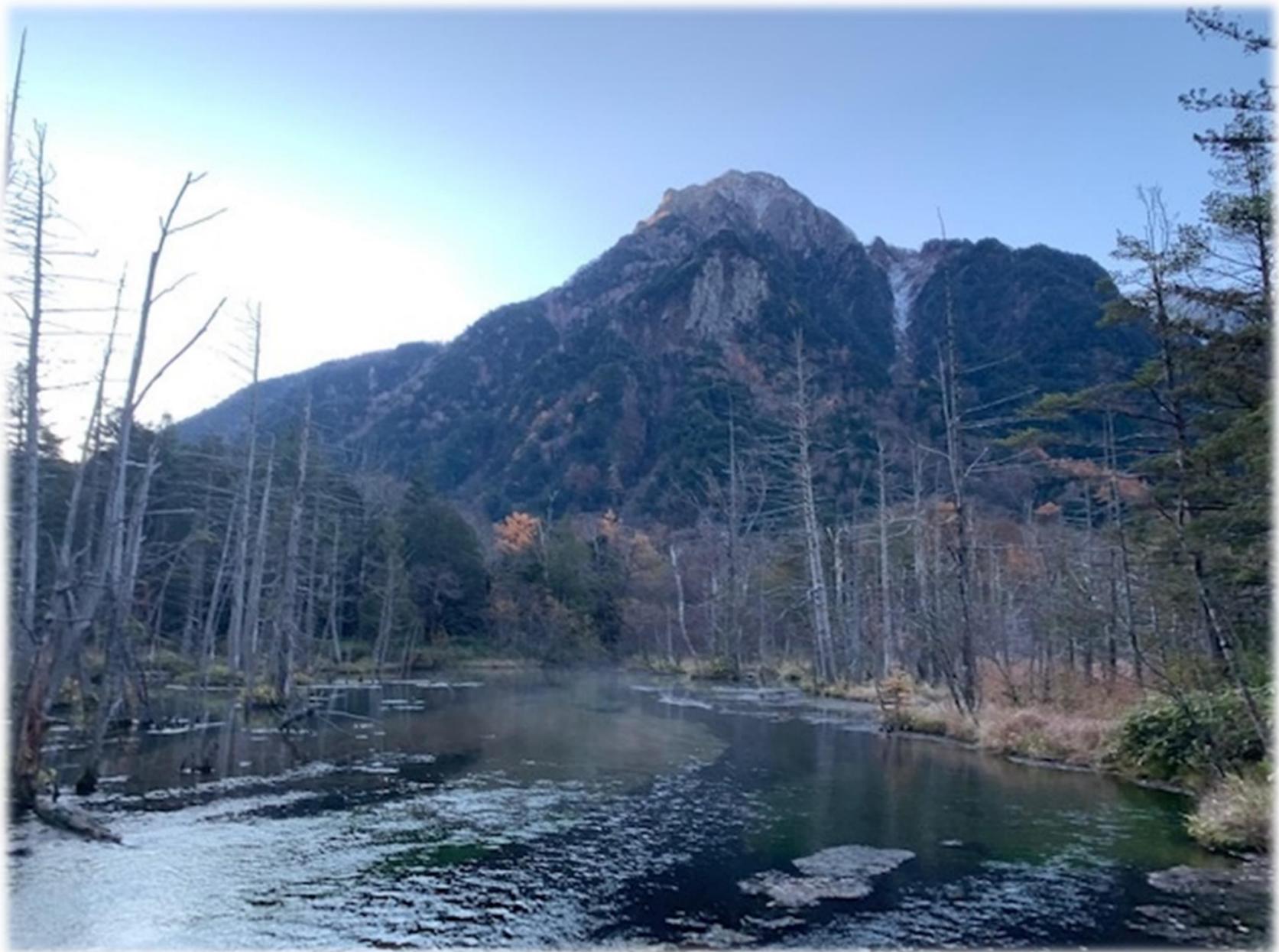


写真: 中部山岳国立公園上高地

はじめに

この度は「内定者の声」をご覧くださり、ありがとうございます。この冊子は、令和4年度入省予定の一般職事務系(大卒程度)の内定者が内定までの過程や勉強方法についてまとめたものです。

第一部では令和3年度の試験スケジュールについて、第二部では内定者のプロフィールや勉強方法などについて書かれています。

公務員試験は勉強の範囲が広く、受験先の最新の情報を確認する必要もあり大変な一面もあるかと思えます。公務員試験の勉強や面接について、皆様の中に不安や疑問を抱えている方もいるかもしれません。この冊子を活用し、皆様の不安や疑問の解決、そしてモチベーションアップに繋げて頂ければ幸いです。

令和4年度環境省入省予定
一般職事務系(大卒区分)内定者一同

目次

○はじめに（内定者一同）	・ ・ ・ P2
○目次	・ ・ ・ P3
○第一部 基礎情報	・ ・ ・ P4
○第二部 内定者プロフィール	・ ・ ・ P6
○おわりに～環境省志望者へのメッセージ～	・ ・ ・ P15

第一部 基礎情報

①R3年度試験スケジュール

日程	内容
令和3年 2月1日～	受験案内がHP掲載される（人事院）
4月2日～4月14日	インターネットによる受験申込
6月13日	第1次試験
7月7日	第1次試験合格発表
7月9日、12日、13日	環境省官庁訪問（※1）
7月14日～8月2日	第2次試験（人物）
8月17日	最終合格発表
8月19日、20日	環境省官庁訪問（※2）
10月4日	採用面接→内定式

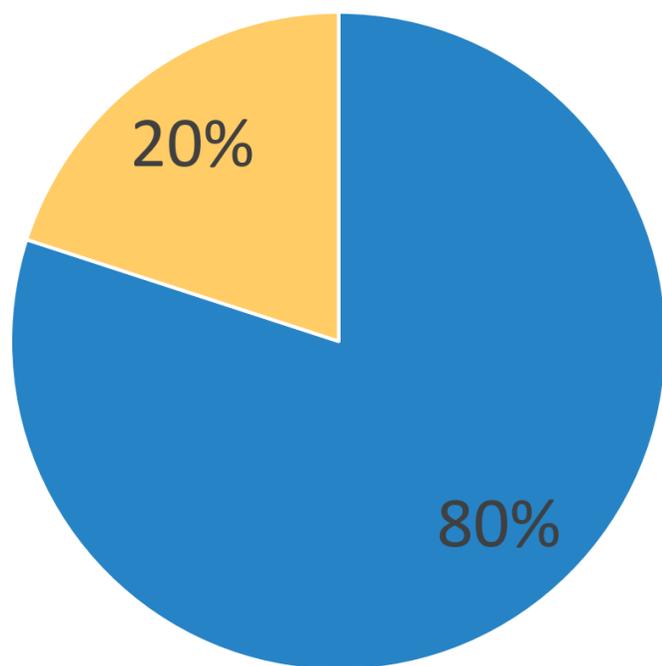
※1 官庁訪問の予約受付は人事院の第1次試験合格発表と同時に開始。
実施方法はWEB面接が基本。

※2 令和3年度は8月にも官庁訪問が実施されました。
（毎年必ず実施されるわけではない。）

②内定者基礎データ集

男女比

■ 男性 ■ 女性

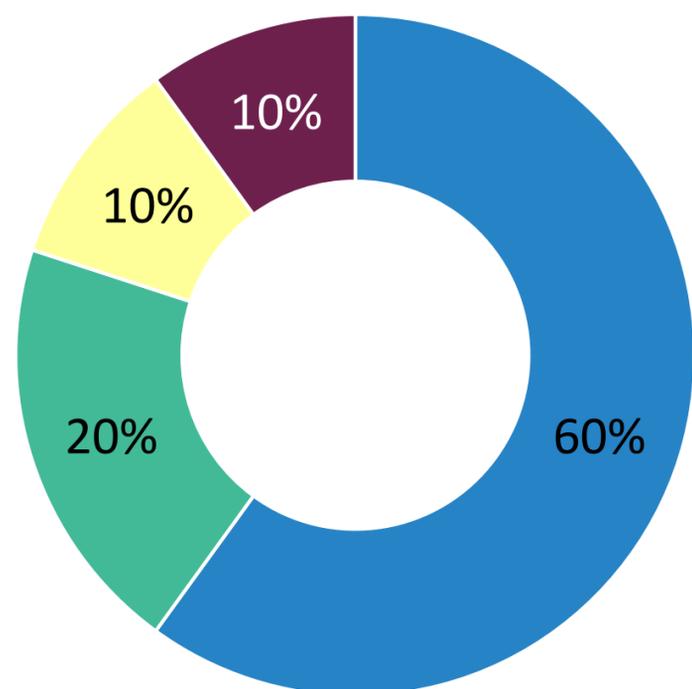


最終学歴

横浜国立大学 北海道大学 中央大学
成蹊大学 北海学園大学 早稲田大学
高崎経済大学 東京都立大学 明治大学
東京法律専門学校

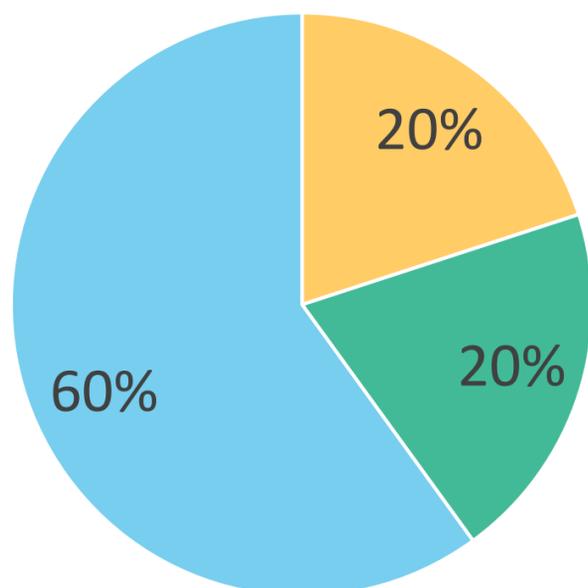
官庁訪問日

■ 7月9日 ■ 7月12日 ■ 7月13日 ■ 8月19日



説明会参加回数

■ 10回以上 ■ 5回以上 ■ 1, 2回程度



※一般職事務系の説明会に限らない。

出身地

埼玉県 千葉県 東京都
栃木県 長野県 北海道

第二部 内定者プロフィール

ここからは一般職事務系（大卒程度）内定者10名が環境省志望動機や公務員試験勉強方法・面接対策について、自身の体験に基づいて記述しています。
ぜひ、ご覧ください！

内定者 A

【出身地】埼玉県

【最終学歴】大学卒業見込み

【趣味／特技】趣味：筋トレ、料理 特技：ギター

志望動機

幼い頃から田舎の自然に囲まれて過ごしており、将来はそのような自然を守り、その魅力を伝えることに貢献したいと思っていました。行政職では自然保護だけではなく、近年注目されている再生可能エネルギーの推進といった規模の大きな仕事にも関わることができるため、より多くの知識や経験を積めることから志望をしました。

勉強方法・面接対策

・基礎能力試験

基本的な文章読解力や計算能力を問われるものなので、自分の苦手な分野を集中的に練習していました。また、時間内に解き終えることも必要なのでタイマーを使うなどして毎回落ち着いて解けるよう本番を意識して取り組んでいました。特に点数を稼ごうというつもりではなく、合格に必要な点数を確実に取れるようにするという目標を立てていました。

・専門試験

過去問を見て、どのレベルまでの専門知識が必要なのかをまず確認しました。そこから逆算して、難しすぎる問題は飛ばすなど、自分が確保できる勉強時間の中で工夫して解くようにしました。3年の春から始めたこともあってか、余裕を持って対策できたので、科目数の多い専門試験については時間を多めに割いてもいいかもしれません。

・二次面接&官庁訪問対策

説明会で情報収集をしたり、白書を読んでみたりすることで対策をしました。特に環境省で近年力を入れている再生可能エネルギーやESG金融のことについては知識を詰め込むようにしていました。面接練習は友達に手伝ってもらい、印象や直すべき点を随時指摘してもらいました。

・内定までの過ごし方、心がけたこと

大学のゼミや卒論、アルバイトで頭をいっぱいにしました。不安になっていてもしょうがないので、今やるべきことに切り替えて動くことを意識していました。気が付いたら、内定発表の日がきていました。

・アドバイス

公務員試験は道のりが長いですが、続けていれば必ず合格する試験だと思います。私は、身近にいる家族や友人、アルバイト先の知り合いなどいろんな人から応援されてプレッシャーを感じていた日もありましたが、結局は自分の人生だから好きにやってみようというぐらいの気持ちで臨んでいました。皆さんも肩の力を抜いて、100%の実力を出せるよう祈っています。頑張ってください！

内定者B

- 【出身地】 東京都
- 【最終学歴】 大学卒業見込み
- 【趣味／特技】 ピアノ・ダイビング

志望動機

大学在学中、漠然と環境に携わる仕事に就きたいと思っていました。学部3年の頃、環境法を学ぶ中で、リスク管理の重要性を感じました。経済発展の利益とその資源利用におけるリスクとのバランスを取っていく難しさ、それゆえの面白さを感じるようになりました。そういった経済と環境のバランスを取る政策に携わることができるのは環境省だと思い、志望しました。

勉強方法・面接対策

・教養試験

一次試験の一年前から予備校に入りました。大学の講義の合間を縫って、予備校の講義を受講し、解法や知識等をノートにまとめて復習しやすくしていました。また、特に数的処理には苦手意識があったので、なるべく毎日問題に触れるようにしていました。知識分野については、ある程度範囲をさらっておいて、直前にしっかりと確認する時間を取っていました。

・専門試験

専門試験対策はひたすら問題集を繰り返し解いて、慣れるようにしていました。法律系科目については、問題演習のほかに、テキストにある各章ごとのまとめページに、判例のポイントやよく間違える点を書き込んでいました。経済系科目は、苦手意識が強かったので、ある程度点が取れるように勉強しつつ、政治系やその他の科目でカバーできるように対策をしていました。政治系科目はキーワードを押さえることが大事だと思い、単語カードにまとめて隙間時間で確認していました。

・論文試験

過去問のテーマについて、ニュースや新聞で情報収集をして、問題点や対策についてWordにまとめるようにしていました。予備校の添削も利用して、文章構成や時間配分などにも注意するようにしました。

・官庁訪問・面接対策

筆記試験の対策の息抜きも兼ねて、8月頃から自己分析を少しずつ行い、各省庁や他の自治体の説明会などにも参加していました。一次試験がひと段落してから、面接カードや想定問答に取り組むことで、より自己分析が深まりました。自分自身がこれまで行ってきたことを振り返り、その時どう思って行動したのかなども考えると理解が深まり、想定外の質問にも対応しやすくなるかと思えます。また、予備校の模擬面接は予約が取れないことも多かったので、友人と練習することもありました。

・内定までの過ごし方、心がけたこと

民間志望の友人が徐々に決まっていく中、焦りもありましたが、公務員志望の友人と情報を共有したり、励ましあったりしていました。試験・面接対策に励みつつも、適度に休息をとることも大事だと思えます。

・アドバイス

試験対策は、やればやった分だけ結果が出てくると思うので、継続して行うことが大事だと思います。ただ勉強ばかりだと気が滅入るので、自然に触れたり、趣味に没頭してみたり、興味のある分野の講演を受けてみたりして気分転換をすることも必要です。そうした何気ないことの積み重ねが、面接で活かされるときもあるかと思えます。公務員試験は長期戦ですが、最後まで頑張ってください。

内定者C

【出身地】 栃木県

【最終学歴】 大学卒業見込み

【趣味／特技】 趣味：「お笑いを見ること」、料理 特技：大食い、剣道

志望動機

アルバイトの経験から、食品ロスに取り組みたいのがきっかけで環境省に興味を持つようになりました。そして説明会に参加する中で、食品ロスに限らず環境に関わる仕事がしたいと思いどんどん環境省に興味を持つようになりました。

とにかくお話が聞きたくていろいろな説明会に参加したり、OB・OG訪問をさせていただいたりする中で、多くの職員の方々のお話を聞くことができました。

「環境省は風通しがいい・若手の意見を上司が聞いてくれる」ということは聞いていましたが、お話を聞いていくうちに、本当に若手のうちから力を発揮できる職場なんだと強く実感していくようになりました。

さらに、環境省の職員の方々は皆さん本当に自分たちの仕事に誇りを持っていて、自分たちの仕事を楽しそうにお話をされていました。

私もこのような職場で、このような職員の方々と一緒に協力しながら若手のうちから力を発揮して行って、自分自身のレベルアップにもつなげたいと思い環境省を志望しました。

勉強方法・面接対策

・基礎能力試験

国家一般職が第一志望だったので専門試験の勉強に時間を割き、基礎能力試験は合格ラインを突破するための最低限の時間だけ割いていました。逆に言えば、基礎能力試験で合格ラインを割ることのないように、おろそかにしすぎないように心がけていました。英文、現代文、資料解釈は一問4分を目安に時間内に解答する練習をしました。

・専門試験

専門試験には力を入れて取り組みました。憲法、民法などの法律科目は、同じ知識でも試験種によって言い回しや出題の仕方が違うので過去問を解くことが非常に大切だと思います。ミクロ、マクロなどの経済科目は、基礎理論を確実に習得することが大切であると思います。実際に、本番の試験で出題されたのは見たことのないタイプの問題だったのですが、何とか解答することができたのは基礎理論の理解を大切にしていたからであると感じています。捨て科目を作るか否かについては、絶対的な正解はなく、予備校の先生や学校のキャリア支援の方、周りの友人などと相談し、自分に合った戦略を練っていくことが大切なのではないかと思っています。

・二次面接&官庁訪問

二次面接：質問に対し、簡潔に分かりやすく答えるように心がけていました。

・官庁訪問

環境省が第一志望だったので、「私はここで働きたいんだ」という強い気持ちを持って面接に臨みました。礼儀作法、言葉遣い、面接のマナー等はとても大切なことですが、何よりも一番意識したのは「面接官の方に自分の気持ちを知ってもらうこと」です。そのためには、どのような話し方で、どのような言い回しで、どのようなことを話せば面接官の方に伝わるか、志望動機などを家で何度も考えていました。環境省の面接官の方々はしっかり受験生のお話を聞いてくれる印象があります。自分の気持ちを言葉にして面接官の方にまっすぐぶつけていくことが大切だと思います。

・試験全体を通して心がけていたこと

説明会になるべく参加するようにしていました。何度も参加しお話を聞くことを通し、自分の中で志望先の職員像・職場像を作っていくことを心がけていました。それを他の自治体や省庁と比較することで、志望先の特徴などに気付くことができました。また、興味のあるお話を様々聞くことができたので、試験勉強で疲れたときの気分転換やモチベーションアップにも繋がっていました。

内定者D

【出身地】 千葉県

【最終学歴】 専門学校

【趣味/特技】 スポーツ観戦、読書、音楽を聴くこと

志望動機

元々社会に貢献して、たくさんの人の役に立てるような仕事をしたいと考えていたので公務員を目指していました。様々な説明会に参加するなかで職員の方の理念に共感できる場所がありました。自分自身、小さい頃は自然が豊かな環境で育ったこともあり環境問題には興味がありました。それに加えて近年の環境保護に対する取り組みの必要性の高まりを感じ、自分もそういった活動に携わり支える立場でありたいと考えたため志望しました。

勉強方法・面接対策

勉強時間は1日平均3～5時間くらいで、準備期間は一年半くらいです。どの試験を対策するにしても基本は反復することを心がけていました。

○一次試験

・基礎択一試験

基礎的な問題から試験本番レベルの問題までとにかく多くの問題を解いていました。ある程度できるようになったら過去問を複数年度にわたって何回も解いて見直しをしていました。正解している問題でも、消せなかった選択肢があれば理解して消せるようになるまでやっていました。難しい問題を解けるようにすることよりも基礎的な問題や時間をかければ確実に解ける問題など取れる問題を落とさないようにすることを意識していました。他には問題を解く順番も意識していました。これは過去問を何度も解くなかで自分で試行錯誤してみると最適な順番が見つかると思います。

・専門択一試験

基礎択一試験と同様に過去問を何回も解いて、問題を見ればある程度の判例や解法が思い浮かぶようになるまで解いていました。出題される分野には偏りがあるのでそれを踏まえて勉強していました。ほぼ出題されない分野は目を通す程度にとどめていました。選択科目はあまり絞らないようにしていました。絞ってしまうと点数が安定しなかったため、全科目解いて自信のあるものを選択して点数を安定させていました。

○二次試験

・専門記述試験

様々なテーマで書いて添削してもらおうと同時に、自分の中で論文の構成を決めてそれに沿って書くようにしていました。試験中は初めの10分程度で問題用紙に結論や自分の考えをメモしてそれを見ながら書いていました。あとは指定された文字数の最低でも9割は書くようにしていました。

・人物試験

受け答えの練習自体は他人に見てもらい、フィードバックをもらっていました。答える時ははっきり言うこと、簡潔に言うことを意識していました。緊張で言葉が小さくなりがちだったので自分の思っているよりも声を大きくして答えたり、語尾もはっきり言い切るようにしていました。一番やって良かったと思うのは場数を踏んだことです。国家一般職だけでなく他の公務員や民間なども受けて本番の面接の空気感を体験しておく、動揺せずに落ち着いて受け答えできるようになると思います。

内定者E

- 【出身地】 北海道
- 【最終学歴】 大学卒業見込み
- 【趣味/特技】 テニス、ライブ鑑賞

志望動機

コンビニエンスストアでのアルバイトをしているなかで、レジ袋の有料化や、フードロスの削減を目指した取り組みが始まったことから環境について考える機会が増え、興味を持つようになりました。環境省でこれらの取り組みに関わりたいと思い志望しました。

勉強方法・面接対策

・基礎能力試験

数的処理は、大学の公務員講座のテキストを年内に3周、問題集を3周しました。文章理解は、一日一本、英文と現代文を読むようにしていました。時間は分量によりませんが、3～5分で解けるように意識していました。講座で配布されたテキスト、過去問解きまくり文章理解(LEC)を使っていました。

・専門試験

法律科目と経済科目の両方で、大学の公務員講座で配布されたテキストを中心に勉強しました。問題集を3周したあと、5か年分の過去問に取り組みました。

・二次面接&官庁訪問

講座で模擬面接を何度か受けて、どのような質問がされるのかをある程度準備していきました。想定していない質問がくる場合もあると思うので、そのときは言葉に詰まらないようにとにかく話すことを意識しました。

内定者F

- 【出身地】 長野県
- 【最終学歴】 大学卒業見込み
- 【趣味/特技】 ジョギング・テコンドー

環境省の志望動機

環境省職員として気候変動問題解決に携わりたいと思い志望しました。令和元年に起きた台風19号で、地元である長野県も大きな被害を受けました。そのような近年多発している大規模な自然災害が、温暖化などの影響を受けていると考えられているため、それ以来、気候変動を身近に迫る脅威として感じるようになりました。さらに、気候変動は農産業や観光業など様々な業界に大きな影響を与えるため、非常に重要な課題であると考えています。そうした重要課題の解決に少しでも貢献できたらと思い環境省を志望しました。

勉強方法・面接対策

勉強方法は予備校の講義をwebで視聴後に過去問をとにかく繰り返して問題慣れをしていました。過去問の中で出題傾向を知り、内容の理解も深めていきました。法律や経済など知っていて損はない知識ばかりなので、内容を学習することを楽しむような感覚で勉強したことで、途中で嫌になることもあまりありませんでした。

面接対策は、面接でよく聞かれる長所・短所や力を入れて頑張ったことなどについて自分自身で深掘りをして、何を聞かれても大丈夫なようにしていました。特に官庁訪問では、なぜ環境省を志望するのかという理由を明確にして言語化しておきました。面接練習も予備校を活用しましたが、家族や友人にも面接練習をしてもらいました。数をこなして面接慣れしておくことが重要だと思います。

内定者G

【最終学歴】 大学卒業見込み

【出身地】 東京都

【趣味／特技】 和太鼓やダンス、バトン、読書

志望動機

環境省に興味をもったきっかけは、食品ロスの問題に取り組みたかったからです。飲食店やスーパーマーケットでアルバイトを経験していく中で、捨てられていく食材の多さに驚きを感じていました。食品ロスについては、環境省だけでなく地方自治体でも取り組んでいます。環境省を選んだ理由は他の取り組みも含め興味があったためです。食品ロスの問題に取り組んでいるのはどの組織においても一部の人だけであり、必ずしも関与できるわけではありません。自分が他の部署に配属になったとしても、興味を持って仕事に取り組めるのは環境省だと考え、志望するに至りました。実は私は最後まで地方自治体か環境省か迷っていたのですが、官庁訪問で実際に職員さんと話していく中で環境省に入りたい気持ちが固まってきました。

勉強方法・面接対策

・基礎試験

過去問を繰り返し解きました。特に数的処理が苦手だったので、何回も丁寧に勉強しました。わからない問題は友人に教えてもらいました。教養試験においては得意を伸ばすというより苦手を一つ一つ潰していく方がよいと思います。歴史や理科系の科目はあまり力を入れませんでした。

・専門択一

最も力をいれました。教養試験においては捨て教科を作ってもいいと思いますが、国家一般職の専門試験についてはむやみやたらに科目を捨てるのはお勧めしません。年によって科目の難易度にばらつきがあるからです。むしろ一つの科目に深く取り組むよりも、いろいろな科目の基礎を固めた方がよいかと思います。いくら勉強しても専門分野でもない限り、問題を開いたら初めて見る学者さん！なんてこともあります。私が受験した年は、経済学が私にとってはかなり難しかったです。財政学や行政学、経営学等も学んでいたため、そちらに逃げられました。大変ですが頑張った皆さんの科目を勉強した方が安全かなと思います。財政学は時事と被る部分も多く、少ない勉強量で点を取りやすいコスパがよい教科なのでお勧めです！

・専門記述

専門記述については、予備校の予想問題を使いました。全部の教科を予備校に通うのは厳しくても、専門記述だけ課金するのはありだと思います！独学では対策しにくい分野だなと感じました。一語一句覚えるのではなく、必要な概念、語句、流れを覚えました。

・二次面接・官庁訪問

二次面接や環境訪問では、特に会話であることを意識しました。長所一つとっても、面接官の方によってその根拠となるエピソードを聞かれた時と、その長所にとって大事な思考プロセスを聞かれる場合があります。長所を聞かれたときなどに、「私の長所は〇〇です。なぜなら～～」といったように長くただらと話さない方がよいと思います。その面接官の方が何を聞きたいのかをしっかりと意識することが大切です。

自己分析や面接練習は、学校のキャリアセンターや東京しごとセンターを利用したり、先輩を頼ったりしました。他人と話しながら自己分析をするのは、自分にない気づきがあるのでお勧めです。

・アドバイス

公務員試験では、結局地道に努力していくことが一番の近道だと思います。ネットで「公務員試験 教科捨てる」と検索したくなる気持ちもわかりますが（私です）、まずは地道に努力するのが一番です。しんどいときもあると思います、直前期や試験中は心が折れかけることもあるかと思いますが、しかし、公務員試験のために必死に努力した日々は、仕事が始まってからもきっと糧になってくれるはずです。皆様と環境省でお会いできる日を楽しみにしています。

内定者H

【出身地】 東京都

【最終学歴】 大学卒業見込み

【趣味／特技】 登山が好きで、北アルプスや南アルプスを縦走したり丹沢や雲取山など関東近郊の山を登頂したりしました。また野鳥や植物を観るのも好きで、大学時代は色々な場所に国内旅行するなかでガンやツルやコウノトリなどを観ることができました。

志望動機

登山や自然観察など自然と触れあうなかで、美しい自然を守り将来世代に残していくことに貢献できるような仕事に携わりたいと思うようになりました。そのため環境省であればどのような業務であれやりがいを感じられると考え、志望しました。

勉強方法・面接対策

・基礎能力試験

専門試験に苦手意識があったこともあり、基礎能力試験は捨てる科目を作らず満遍なく勉強しました。数的処理と文章理解は予備校の講義のなかで出てきた問題をしっかりマスターできるよう、復習を重点的に行いました。暗記科目は知らない言葉などをスマホのメモに控えておき、電車の中や就寝前などスキマ時間に見直して覚えるようにしていました。

・専門試験

経済学がやや苦手だったので、予備校の講義を聴いて基礎知識をインプットしたあとに問題演習をしっかり行い、本番で出題されるような応用問題に対応できるようにしました。政治学などの行政系科目については細かい知識の深追いを避け、基礎知識を確実にアウトプットできるように心掛けました。

・二次面接&官庁訪問

面接カードに記載する内容を考える過程で自己分析をしっかり行い、自分自身の気持ちを整理しました。また、想定される質問に対してきちんと回答できるように、分かりやすく言語化する練習を徹底しました。

内定者I

【出身地】 北海道

【最終学歴】 大学卒業見込

【趣味/特技】 趣味：旅行 特技：茶道

志望動機

2020年の動物愛護法の改正のニュースから環境省に興味を持ちました。説明会に参加させていただいたり、環境省について調べているうちに、環境問題などの地球全体の課題に日本ができることを考え実行し、世界と協力しながら立ち向かっていける仕事だと知り、私もそのような仕事に携わりたいと考え志望しました。

勉強方法・面接対策

～基礎能力試験～ 公務員講座のテキストを繰り返しました。特に力をいれたのは、文章理解で、早く正確に解けるように毎日練習しました。

～専門試験～ 専門試験も公務員講座のテキストで勉強しました。私は経済学に苦戦しました。経済学はテキストの章の最初に出てくる基本の問題を繰り返し、型を覚えて対処していました。苦手な科目は足を引っ張らない程度にできたらいいかと常に思いながら勉強していました。

～面接～ 二次面接と官庁訪問どちらも履歴書から想定される質問を自分で考えると共に、親や大学のキャリア支援センターの職員の方にも履歴書を見てもらい、質問を考えてもらいました。その質問と回答をノートにまとめ、考えを整理していました。またそのノートを面接の直前にも見て心を落ち着かせていました。

内定者 J

【出身地】東京都

【最終学歴】大学卒見込み

【趣味特技】野球観戦、バドミントン、ピアノ

志望動機

子や孫の世代に自信をもって引き継げる社会を作りたいと考え志望しました。環境問題は日本や世界全体として取り組んでいかなければならない一方で、各個人だけでは取り組む事が難しいため、国家公務員として解決につなげたいと考えました。

勉強方法、面接対策

どちらも予備校に通って行いました。試験に関しては問題集を繰り返し解くこと、面接に関しても慣れることが重要だと思います。

面接練習は大学などでも出来ると思うので、繰り返しやってみてください。

おわりに

内定者の声を最後まで読んでいただき、ありがとうございます。この冊子では、令和4年度入省予定の一般職内定者が内定までの過程や勉強方法についてまとめました。就職活動では分からないこと、不安なことが多いと思います。内定者の声を通じて少しでも皆様の疑問や不安を解消できたら嬉しいです。環境省では他にも説明会などを通じて一般事務職に関する情報をお届けしています。参加していただくことで、私達が感じた環境省の魅力もより納得していただけたらと思います。

公務員試験は長い戦いになりますが、諦めずに続ければきっと合格することが出来ると思います。皆様には後悔の残らない就職活動をしてほしいと切に願っております。環境省でともに働ける日を楽しみにしています！

令和4年度環境省入省予定
一般職事務系（大卒程度）内定者一同

※環境省について

環境省職員には総合職と一般職があり、それぞれ事務系、自然系、理工系にわかれています。この冊子は令和4年度環境省入省予定 一般職事務系(大卒程度)内定者が作成しています。採用に関する情報に関しては下記 HP を参照ください。

○環境省HP

<http://www.env.go.jp/>

○環境省採用・キャリア形成支援情報 HP

<http://www.env.go.jp/guide/saiyo/index.html>